

3D 関西だより

No. 14 2014.7.27

夏の例会を開きました

7月27日(日)夏の例会を開きました。会員の出席は12名といつもより少なかったのですが、4月に入会された西井さんに紹介された守山ビデオクラブと寝屋川市映像協会の方が6人ゲストとして参加されましたので、中身の濃い例会になりました。また今回の作品の上映は、西井さんが持参されたLG 60インチの3Dテレビで行いました。スクリーン投影より簡便で色もきれいなので、将来の上映方法として一考する価値はあります。



写真展「飛び出し Masse 2014」

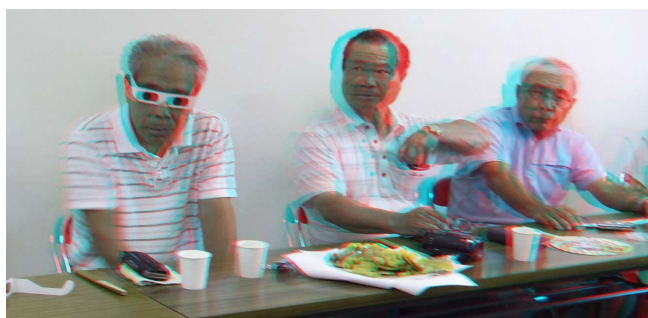
例年秋に開いている3D写真展「飛び出し Masse」を今年も開くべく会場を物色していましたが、神戸の三宮駅近くにある「ギャラリー葉月」を予約しました。期間は、12月4日(木)～10日(水)で、4日が搬入日です。前回と同じように、A3アナグリフプリントと3Dテレビ上映を中心にした展示にしたいと思いますので、今から作品の準備をしてください。

私の3D履歴——西井 学さん

3Dを初めて知ったのは40～50年前、白浜のPANAエネルギーランドでの体験です。7年ぐらい前OMCの後輩の井上さんが3D関西に入会されたと聞き、2013年夏、井上さんを招いて、守山ビデオクラブの例会で講演と映写会をしてもらって、意欲が熟成し、早速SONYのTD-10を買い込み、活動を開始しました。

3Dのいちばんの魅力は、臨場感がすばらしい点です。今いちばん苦労しているのは、奥行き調整です。みなさんのノウハウをぜひ教えていただきたいです。

目下は、秋の紅葉、冬の北海道、守山のまつり、なばなの里、はなまつり、日本最北端天売島の100万羽の鳥などを追いかけてつ、和歌山、大津、守山などのビデオクラブで、デモを行っています。将来絶対撮りたいと思っているのは、越中八尾の風の盆、3Dゴルフレッスン、3Dグラウンドゴルフ、3Dクラシックダンス、世界の海の神秘3Dなどです。



中央が西井さん

3D接写の楽しみ (野口 威)

LUMIX G 3Dレンズ(写真)は焦点距離12.5mm/F12ですが、ステレオベースが約10mm、固定焦点で、ピントが合うのが60cm～∞ということで、ステレオ効果としてはやや迫力に欠ける点があります。それで市販のクローズアップレンズ(ケンコー製)を併用すれば迫力ある3D接写になるのでは、と考え、試してみました。

まず、硬質塩ビシート(0.5mm厚)を巾45mmに切り(クローズアップレンズ2～3枚使用時)、これを、3Dレンズの外側(外径57mm)に巻きつけ、硬質塩ビシート専用の接着剤で固定して、内径57mmの円筒を作成します。この時、円筒は楕円形になりますが、このままのほうが、レンズの固定には便利です。表示サイズ55mmのクローズアップレンズは、外径が57mmで、3Dレンズの外径と同じなので、必ず、55mmを選んで下さい。

小生のテストでは、ケンコーNo-3 1枚使用で、レンズ前約30cmにピントが合います。この場合は、塩ビシートの巾は30mmで十分です。また、No-3、No-2の2枚を使用すると、レンズ前10cm程度にピントがきます。

カメラボディにはLUMIX GX1を使用し、MFアシストを利用してピントを確認していますが、手持ちでの撮影では、ピント確認後、シャッターを切るまでの間に、カメラが動きますので、三脚使用は絶対必要です。



カメラボディーLUMIX GX1とLUMIX G 3Dレンズ



自作接写アダプターを装着したところ

「3D関西だより」への投稿をお願いいたします。テーマは、3Dに関することなら何でも結構です。例えば「ステレオベースの決め方」「ハイパーステレオの楽しみ」「紅葉の撮影ポイント」「桜の撮影ポイント」「新しいカメラ紹介」などなど。